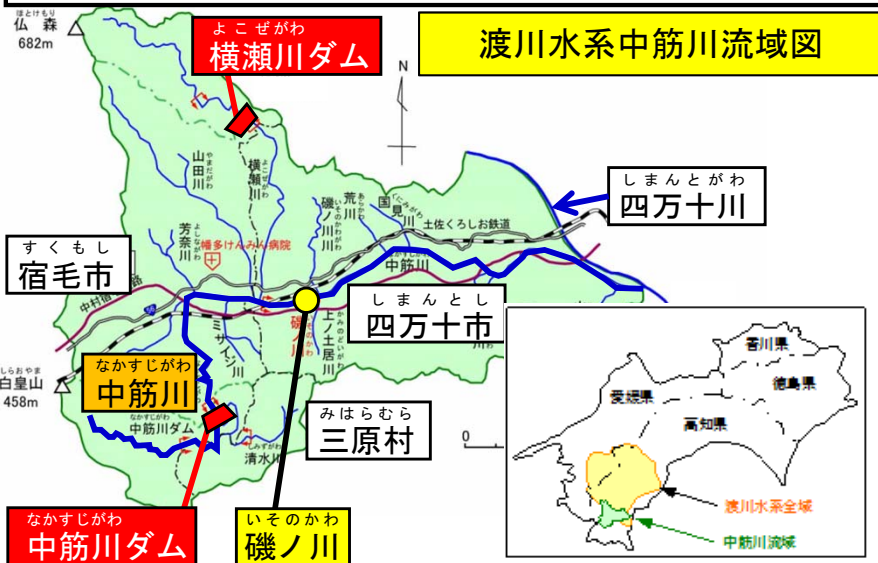
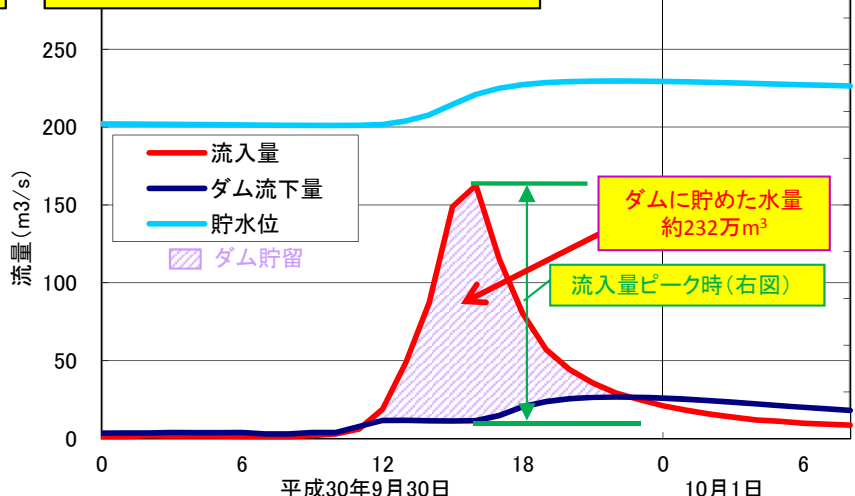


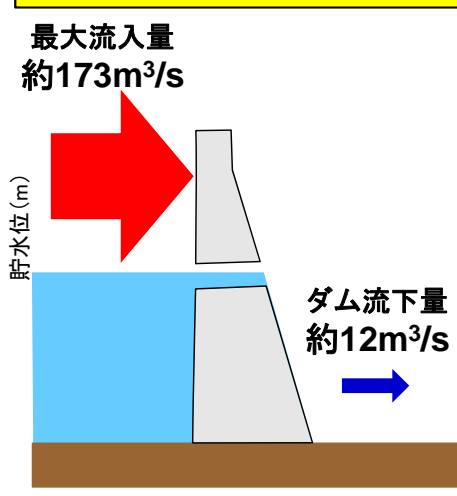
- 中筋川ダム上流域では、9月28日～30日において累計約227mm（時間最大約44mm）の雨量を観測。
- 中筋川ダムでは、ダムに貯留している水を事前に放流し、容量を有効に活用することで、ダムへの最大流入量約173m<sup>3</sup>/sのうち、**93%カットした約12m<sup>3</sup>/sに流下量を低減**。これにより、中筋川ダムが無かった場合に比べ、磯ノ川地点の水位を**約75cm低減**させ、氾濫危険水位の超過を回避。
- さらに、平成29年度に実施した**河道内の樹木伐採**と併せた治水効果により、**家屋浸水や国道56号の道路冠水による通行止めを回避することができた**と推定されます。
- 横瀬川ダムが完成**していた場合は、磯ノ川地点の水位を**さらに約45cm低減**する効果が期待できたと推定されます。



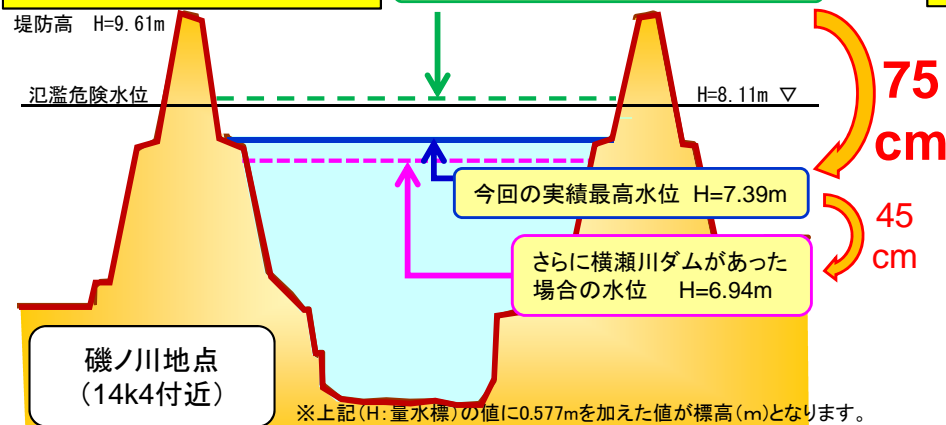
中筋川ダムの洪水貯留状況



最大流入時の中筋川ダム



ダムの効果



平成26年6月梅雨前線による出水時の浸水状況(内水)

